



今回実施した「夢のはしごをかけよう！」プロジェクトの授業に関するご意見やご感想がございましたらぜひお聞かせ下さい。(協力者アンケート)

(ア) 夢を抱く事はよい事だと思うが、全員が必ずしも本心から思っていないかともいいと思う。誰かと同じでいいという気持ちならそれも素直に表現すればいい。作成し発表して終わりではなくそれに向かってどのように今後を過ごすかが大事だと思う。

(イ) クラスの仲間とワイワイガヤガヤと進めていくうちに大きなものが出来上がっていく体験はやりがいとか手応えという知識では得られないものを得られると思います。

(ウ) 親が子どもの授業に関わる事はまずなことなのでよかったです。

(エ) 先生方の準備等は学校内外を含め大変だったと思いますが子供には学校生活の中で印象に残る授業だったと思います。今後も続けていかれたら良いと思います。

(オ) 授業時間をどのように割っていたのか不安だったので他の同学年のクラスと(宿題も含めて)比べ学習が遅れているのか提示して欲しかったです。

(カ) 作品にも生徒の作文にも感動しました。また、斉藤先生と高田先生の熱意にも驚かされ、学校教育のイメージが変わりました。私にとっても生徒にとっても忘れられない授業ではないかと思えます。

(キ) 小学校生活において高学年になる手前の学年4年生という時期にこのような企画が学校でできた事はとてもよい経験となったと思います。思春期にさしかかる難しい年齢でもあります。これからの自分というものにどのように向き合っていけるかどうか、役立てるのではないかと思います。とてもよかったです。



(ク) 来年も実施してほしい。

(ケ) 今回の授業で子供達が体験した事は大人になってからも大切な思い出として残っていくと思います。クラスのみんなで一つの大きな作品を作っていく・・・とてもステキな授業をありがとうございました。またいつかやって頂ける事を心からお願いします。



「夢のはしごをかけよう！」プロジェクトにまた参加したい理由を教えてください。(児童アンケートより)

(ア) 夢です。心です。

(イ) ゲストの先生と授業をすることが楽しいからです。

(ウ) 図工が好きでみんなと協力して作品を作りたいから。

(エ) この授業をやった夢にちかづけた気がする。

(オ) きびしいけどやっていると寒さもふっとぶほど楽しいから。

(カ) 今までこういう体験をした事がないからもう一回やりたいと思った。

(キ) 大きな布に書いてもっとお母さんやお父さんの気持ちをしりたい。

(ク) 夢のはしごをかけようの授業で夢ができたこと

(ケ) 自分の夢を発表したいから

(コ) さむかったけどみんなと協力をして楽しかったから。

(タ) すごい、大きい、きれい

(チ) クラス32人でまた作りたい、

おわりに 「もう一つの」 夢のはしごをかけよう!

今回のプロジェクトには大きなハプニングがありました。それは、プロジェクトの第二回後に転校する児童が出てきた事です。33人で始めた作品作りが最後まで参加できない児童が出てきた事で私自身はとても動揺しました。「みんなで作り上げる」という最も大切にベーシックな目標すら叶わないのか・・・と思ったのです。その児童と時をもっと共にし、これから始まる「足掛かりの布」作りを一緒にやりたかったのに、と落胆していました。何か、目標を達成する意味でも

その児童にしてあげられる事はないか、と考えました。実は、その児童は、事故に遭い怪我をして病院で過ごしていたのです。私も大学時代、ダンスの公演前に靭帯断裂という怪我をして入院手術をした経験がありました。その時、練習で先輩がいつも言っていた言葉がよぎったのです。「このメンバーで踊れるのは今しかないから」その児童と、クラスのみんなが作品を共にできるのは今回が初めて最後で、もう時間は過ぎてしまったのです。しかし、何とか「夢のはしご」をその児童が参加できる形で作り上げたいと思いました。そこで、その児童とクラスの児童の「夢のはしご」を作る事にしました。



これは、有志が集まって行間休みや、昼休み、放課後に色を塗りあげたパネルです。描き方は、第三回の「夢のはしごに色をつけよう」の授業での方法と同様です。そして、そのパネルにクラスの児童32人が回復への祈りを込めたメッセージを書いた「足掛かりの布」を貼りました。しかし、まだ完成ではありません。病室で児童に渡し、最後にその児童が「早くたいいんできますように」というメッセージを書いたブルーの布を貼って完成なのです。こうしてクラスみんなの「もう一つの夢のはしご」が出来上がりました。そして、その日児童からのビデオメッセージが「夢のはしご」の返信としてクラスの児童に届けられました。

